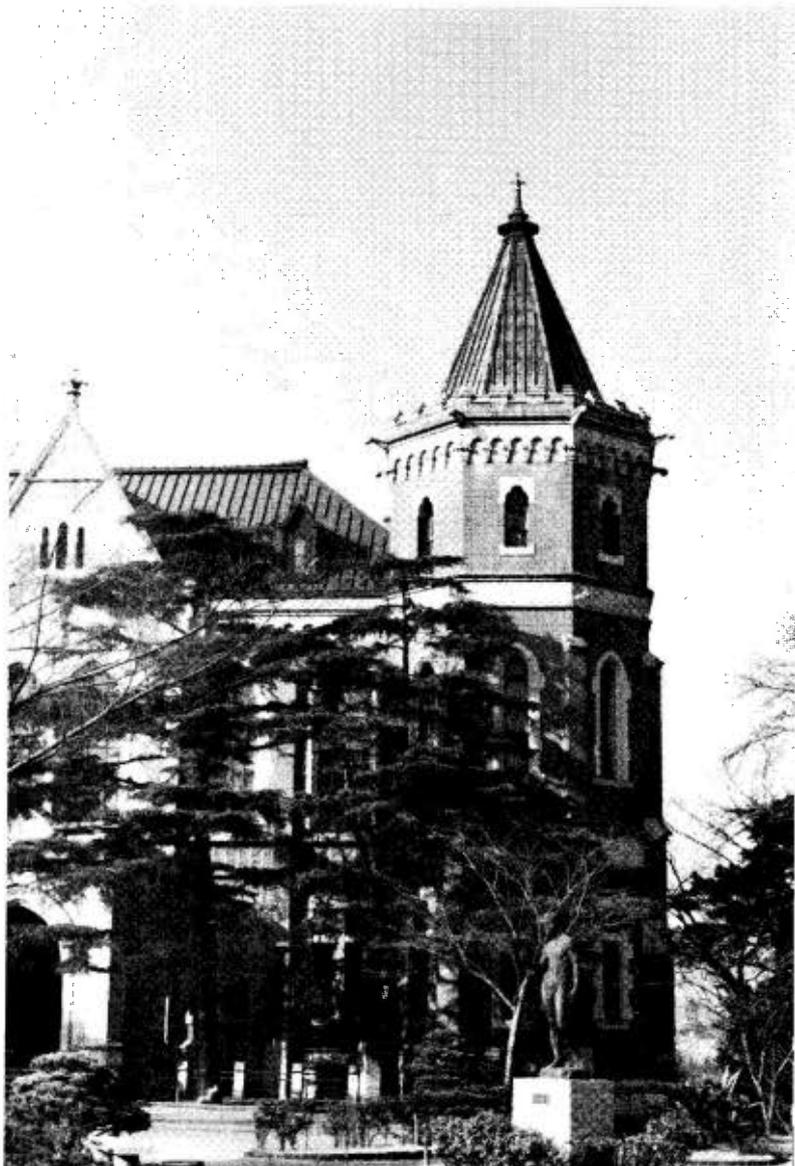


# 八角塔

慶應義塾図書館

昭和四十二年十二月

2



文献複写のこと

佐藤 朔

(図書館長)

教室でテキストとして、絶版ものや新しい作品や、雑誌論文などを使い出して、もうずいぶんになる。戦中、戦後にかけて、翻訳の出ていない、珍しくて、新しく、面白いものをというつもりで、大使館や日仏会館で借りた本や雑誌から恰好なテキストを選んで、騰写版で刷って、学生といっしょに読んだ。原書が自由に手に入らなかった時期には、こうした形で新しい論文や作品をずいぶん読むことが出来た。紙はザラ紙、インキも悪く、それにタイプの打ち違いなどあって、読みづらいこともしばしばだった。

この頃は、ゼロックスとか、リコピーとか、マイクロフィルムとか、新しい方法が進歩して来て、迅速、正確になり、非常に重宝している。研究用にしても、**論文集、紀要、雑誌**などに掲載されている論文は、そのなかの一、二篇が必要なだけなので、それを複写しておけばすむ。これまでいくつか予約していた雑誌に

しても、図書館か研究室にあれば、個人で予約しなくてもすむようになった。第一、個人では雑誌、新聞類は、保管に困るし、整理して、利用に備えておくことが困難である。年月が経つにつれて、こうした文献は殖える一方で場所ふさぎであり、十分に整理されていないから、最近号の他はあまり利用しなくなってしまふ。単行本でもこう殖えてくると、すべてを本の形で持っていることが出来なくなり、読まないもの、または一部しか読まないものが、書齋にあふれてくる。

文献複写を利用して、ある主題の論文を集めて、整理しておくことが絶対に必要である。ところが私自身は、それが大変下手で、複写したものを一度利用したあとで、行方不明にしてしまったものがある。中には複写しただけで安心して読まないものもある。これからの研究者は、複写文献の整理、分類、利用法を、よくよく考えなければならぬ。

八角塔 第2号 目次

《巻頭言》 文献複写のこと…………… 佐藤 朔 1

研究・教育と文献複写

文献複写と私…………… 渡辺 國 廣 2

医学図書館文献複写サービス…………… 土屋 健三郎 4

ミニミニ<sup>ライブラリー</sup>図書館…………… 浜田 敏 郎 8

図書館の複写センター…………… 7

図書館ニュース…………… 10

八角塔 / 第2号 / 昭和42年12月1日発行 / 編集兼発行人 石川博道 /  
発行所 慶應義塾図書館 / 東京都港区三田 2-15-45 / 電話(453) 2111 (大代表)

塾の先生がたが研究のために文献を手に入れられるとき、しばしば必要な文献の複写したものを得られることがあります。複写文献は、その形がどんなものであれ、研究や教育に必要なインフォメーションを得る一つの確実な方法であると云えます。

複写器機や技術の進歩のおかげで、今までは到底入手できなかった文献が、もしその所在さえ判明すれば、手に入れることができるようになりました。

複写文献を入手できる範囲も広がり、国内はもとより外国からとりよせることもできます。

図書館では、塾に所蔵されていない重要な研究書・雑誌論文を先生がたが入手できるようお手伝いしてきました。しかし、まだまだ多くの先生がたに文献複写の便利さを知っていただけていないのではないかと心配しております。

八角塔第2号は、文献複写をとりあげ、そのサービスを度々利用されているお二人の先生に体験談を寄せていただきました。

## 私と文献複写サービス

渡 辺 國 廣

(経済学部助教授)

### 文献複写の活用

編集の責任者が来訪され、本誌の次号で文献の複写を特集のテーマとして扱いたいと思うから、体験を寄稿せよという厳命である。突然のことで一瞬とまどってしまったが、この件ではいろいろと図書館の参考調査課のお世話になっていることでもあり、この際その罪を少しでも軽くできればと、あえてお引受けし、経験の一端を述べる次第だ。しかし実際いってどれだけお求めにこたえられるか心配でならない。

### 文献の複写と私の立場

ここでいう文献の複写とは、塾にない文献で、個人的に申出のあったものについて図書館の参考調査課が所在を確認し、複写フィルムとして取寄せ、依頼者の便宜に供するという作業だが、照会と連絡の労は図書館がとり、依頼先から請求のあったフィルム代等は申出者個人の負担という仕組みになっている。図書館の仕事としてこの分野は今後いよいよ拡充されなければならないというのが私の立場であってみれば、単に責を塞ぐという以上に、この執筆に積極的たらざるを得なかった。今日では図書館相互間の交流が国際的な規模にまで拡大しており、文献の複写ということを紹介しながらにして自由に、国内はもちろん、海外の文献

まで利用できる。まったくもって重宝なことになった。

A. 文献の複写と図書館 塾の図書館は他に先がけ、文献の複写と積極的に取り組んで来た。時代の要請を受入れたわけだ。最近では文献複写センターを併設する大学図書館も出現し、複写フィルムの提供にとても簡単にこたえる体制が整備されつつある現状だ。図書館活動の今後の在るべき方向として注目していいのではなかろうか。図書館とえば、保存に重点が置かれたが、昨今における複写技術の異常な向上のなかで、もはやそこにとどまることが許されない。文献を公開し、広く利用に供するということに向かって大きく脱皮しなければならないようだ。保存から利用へ、その機能の大きな転換であった。文献を、保管というよりは利用の面で考えようとするのである。そして利用ということで、誰にも平等に知識に接近する機会を与えたいとする精神が、どうやらこの転換の基底にあったようである。

B. 文献の複写と私 塾の経済学部では研究会を希望選択として課している。3年生の時に入会し、卒業



まで引続き履修するのである。私もそれを担当させられている。私が文献の複写ということ始めた動機だが、一つは、研究会に対する私の指導方針と関連していたようだ。

私は研究会を西洋経済史ということをやっている。学生はそれぞれにテーマを持ち、勉強するわけだ。私はその指南役ということか。学生に独立の仕事を持たせてこそ大学である。しかし対象が外国のことだけに、あまりこまかなことを学生に強制するものどうかと、各自のテーマに応じて定評ある文献をがっちり読ませるよう努力している次第だ。ことは簡単のようだが、いざ塾の図書館を調べてみると、当然あるべきものがいないのである。収書の豊富さに私も重宝しているが、この点で落胆することがときにあることを否定できない。一般的にいって、学生指導の手段に図書館を利用する段になると、どうも不備な点が目立つのだ。従来まで大学の図書館は学生の便宜を考えずに運営されていた。しかし今後これは許されない。むしろ図書館は学生のため専門家に対するサービス以上のことをやってのけなければならないようだ。従って収書の際にもこの点が加味されて当然である。もはや図書館だけが特定の個人の特殊な研究の具にとどまっていけない。学生という一般研究者のための必要に迫られ、私は複写という仕事で参考調査課をわずらわすことしばしばだが、図書館としてもっと制度化してくれればと願うだけだ。またこの種の文献には目録にありながら、欠本が多い。簡単に複写できるので、補充ということをや大々的に計画してみてもどうか。

### 複写フィルムの入手

塾の財源が豊富だとしても、利用者の求める文献をすべて整備して置くということは願っても不可能な相談であろう。しかし最近では複写の技術の発展で、正式の手続きさえ踏めば、塾にないものでも簡単に利用できる状態に持込めるため、いたって便利になった。実に都合がいい。図書館相互間における文献交流の組織化で達せられた収穫ということであろうが、実際いって文献の利用はかなり容易になって来た。そして昨今は文献について利用という面を重視するのが大勢のようだ。この方向に乗ったサービスに当るのが、塾の場合、図書館の参考調査課で、私自身その利用者の一人として、大いに重宝している次第だ。私事にわたる

が、参考調査課をわずらわし、塾にない文献を、いくつか複写フィルムで入手して来た。図書館のうまい利用法と信ずる。以下ではその手続を紹介しよう。

A. 国内所在の文献の複写 国内に所在のはっきりした文献について複写フィルムがほしい時、私の場合、東大に依存することが多い感じだ。東大では文献複写センターを設置し、大学内に所在のすべての文献について複写に応じてくれる。処理はきわめて能率的だ。塾はこの点で立後れの感が深い。塾内のすべての文献をどこかで統一的に把握するという仕組みの一日も早い確立が望まれるわけだ。各所に分散して所蔵する現状に手を触れるということはちよっと誰にもできないが、塾のどこにどんな文献があるかぐらひはもっと簡単にわかっていいと思うのだが。

1. 私の手で塾内にないということを確認した後、参考調査課にその所在の調査を申出る。所在がはっきりした時、その複写フィルムを取寄せてくれるよう頼みおく。

2. 参考調査課はこの依頼を受け、まずそれが実際に国内にあるかどうか調査する。方法としては電話・葉書による問合わせのようだが、いかにも残念である。文献の交流が円滑に進むため蔵書目録を刊行する努力がなければならないわけだが、現実にはそれをかくので、こうした仕方もやむを得ないのか。文献の交流といっても個人的なつながりのなかで処置されることになってしまう。いきおい範囲は限定されざるを得ない。図書館の今後の在るべき姿を確かなものにするためにも、文献の利用を容易にするような努力は望ましい。とにかくそのため必要な前提の構築を急がなければならない。現実はいきびしい。塾の図書館も蔵書目録の作成に大々的に乗出してみてもどうか。図書館としていろいろ仕事もあると思うが、実は目録の整備が図書館の価値を左右することになるのではなかろうか。戦前すでに立派な刊行目録があり、その続編に対する期待が今日ほど大なるはない。図書館の公開性を高めなければならない時、これは不可欠である。全国の図書館の協議団体があるからには、目録の統一的な型でも工夫し、それによって各図書館が作成を進めるということにでもなれば、これに過ぎる喜びはない。いながらにして文献の所在を確認できるというものだ。全国の図書館の蔵書が自分のものとなるのである。

3. 先方より正式の申込書が届く。参考調査課に送付されて来る。参考調査課より連絡があるから、印鑑を持参して出向く。印鑑は「誓約書」に必要である。と同時に代金請求書が送られて来ている。それを指定の銀行に持参し、払込む。「誓約書」は参考調査課より先方に送付される。それはごく常識的なたぐいで、営利的に利用しない旨のもの、ほかに特別のこととしては所蔵場所の確認が求められるぐらいである。

4. 代金の支払がすめば、現物を待つばかりだ。到着したら、複写フィルムだから、必要な型に引伸ばすなりして、利用すればいい。参考調査課はこのサービスも引受けてくれる。費用は依頼者の負担だ。図書館にマイクロ・リーダーはある。私自身としては、使用済みのフィルムを図書館に寄贈することになっている。一コマ10円くらいの計算だろうか。先方よりの請求分については依頼者が負担に応ずることは申すまでもない。参考調査課では照会と連絡の労をサービスしてくれる。有難いことだ。先方から手数料を請求されたことはない。

B. 海外所在の文献の場合塾にないばかりか、国内のどこにも見つからない時、私はアメリカ議会図書館の目録を調べる場合が多い。議会図書館の蔵書目録は文献を発行年により整理している。ごく最近に発行の

文献についてもすでに目録ができており、能率のよさに感心させられる次第だ。いいことに、この目録は文献の内容をその文献の目次により示している。これにより文献について大体の評価を下すことが可能である。文献の所在が確認できれば、その複写フィルムを取寄せる運びとなる。議会図書館にない場合、アメリカ国内で所蔵する箇所を知らせてくれる。実に親切だ。

1. 参考調査課に依頼し、複写の申込をしてもらう。約2週間後に代金請求書が送られて来る。複写の費用のほか、調査費や荷造代が要求される。これは当然のことで、国内の場合、その請求がないのが不思議なくらいだ。制度の持続を願うとしたら、この点はまねていいと思う。当事者の好意的な努力におう運営をもってよしとするのがわが国では一般のようだが、いかがなものか。

2. 送金は銀行を介する。銀行に出向き、大蔵省あて外貨使用の申請をし、請求金額を払込む。銀行から払込証を受取り、参考調査課に先方あて送付を依頼する。現物が到着するまで約3週間かかるとみたらいいか。参考調査課と折衝を始めてから、最大限2カ月くらい要することになると考えたなら安全だ。

3. 費用だが、一コマについて20円とみれば間違いない。国内に所在の文献の場合の倍ということか。

### 医学図書館文献複写サービス

土屋 健三郎

(医学部衛生学・公衆衛生学教授)

1958年のことであるから、かれこれ10年になるが、私が図書館というものを見直したのは、カリフォルニア大学図書館のReference係りのお嬢さんに話しかけた時であった。私はその時ある文献を探していた。2時間近くも書庫をあさって、とうとうなかばあきらめて書庫からでてきた。そして念のためReference係りの美しいお嬢さんに「これこれこういう文献を探しているのだが……」と話してみた。その頃すでに当医学部の図書館でも同じようなサービスは始まっていたと思うが、私の記憶では、私が図書館というものを見直したほど、迅速に文献の所在をつきとめそしてそのCopy

が入手できたのであった。そして帰国後、急速にわが医学部図書館の機構その他が整備され、現在では少なくとも優るとも劣らない文献探知力とサービスが充実された。もちろんお嬢さんたちの美しさもヒケをとるどころか、はるかに素晴らしいことをつけ加えておかなければならない。関係者の並々ならぬ



努力に敬服するものである。

1959年帰国後は、それ以前では入手できなかった文献、例えば戦争中のPublic Health Reportやその他の雑誌に掲載された文献が医学部の図書館を通して、予想外に早く手元に入るようになった。今では、読みたいもので(大部分はアメリカであるが)、入手できないことは殆んどなく、その昔、国内にないと知るとあきらめてしまったのを思い出すと、文字通り、今昔の感がするのである。とにかく、今では誌名、巻数、年号、題、著者名がはっきりしていれば、まず手に入らないことはないと考えてよい。そして、記入さえすればautomatic(?)に入手できるのであるから全く便利になったものである。automaticといっても、図書館員諸兄姉の舞台裏での大変な努力が払われていることは申すまでもない。そこで、少しく舞台裏を覗きながら、私の経験から文献の探し方や、複写文献の入手までのプロセスを簡単に紹介してみよう。当医学部図書館に求める文献が所在している場合は複写について問題はないので、所在していない場合のみについて述べることにする。所在しているかないかを確認することも問題になることもあるが、それについては後で触れることにする。

### 複写文献入手までのプロセス

利用者がなんらかの方法で求める文献が手元にはないが、国内にある(これも館員が調査に手助けしてくれる)と分かった場合、「貸出し係」のデスクで、「相互貸借申込控」に誌名等必要な事項を記入する。利用

者のやることはこれだけで良いのであるが、それから館員の仕事が始まる。後で述べるIndex Medicus, Current Contents等で依頼された文献が正しいかどうかをチェックしなければならない。そして図に示すような「相互利用」(図1参照)の葉書でその文献の所蔵大学、研究所等に申込み。利用者の望みにより、ゼロックスあるいはフィルムが先方から通知書と共に送られてくる。利用者はかかっただけの実費を払いこんで受けとれば良い。

国内にない場合は、貸出し係はアメリカのIndex Medicusの集録リストなどにより依頼された記述事項を確認し、図2に示す所定の申込用紙にタイプしてNLM(National Library of Medicine)に送付する。NLMのサービスも非常に迅速で、筆者の経験では約1ヶ月後に入手した記憶がある。また、この場合はair mailの代金と基本料金だけ払えばよく、大体3000円位の費用で済む。(複写代金は不要)

### 文献の所在の探し方と書誌的事項が不完全な場合に確める方法

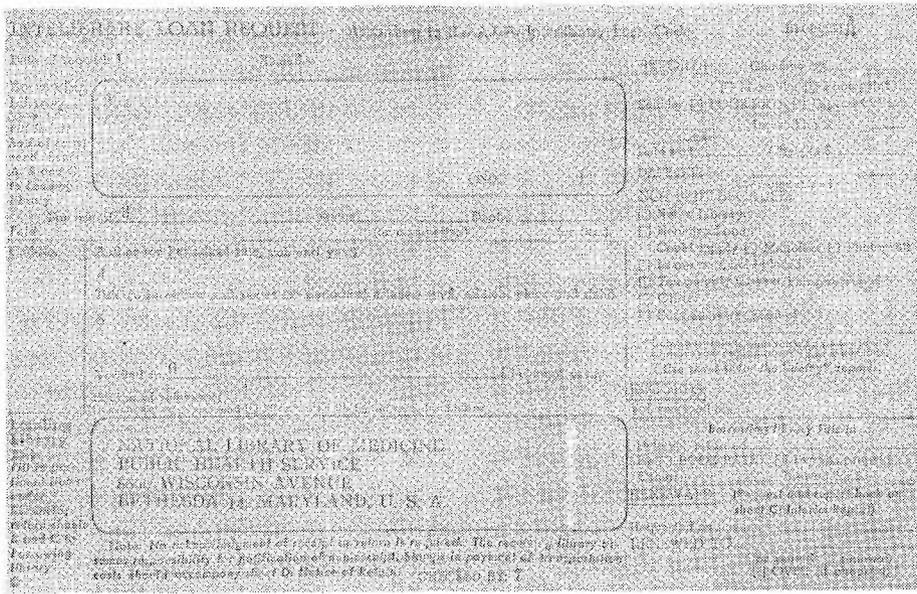
上に述べたとおり、書誌的事項が完全な場合には複写文献入手も難かしくないが、著者がはっきりしなかったり、雑誌が明らかでない場合のように、書誌的事項が欠けているときは、どうすればよいかを大体知っておくと便利である。

① 希望文献の書誌的事項は明確であるが手元にその掲載誌のない場合。

日本医学図書館協会では、その加盟館約100館の雑誌所蔵目録を発行している。「医学雑誌総合目録」及びその補遺である「現行医学雑誌所在目録」(年1回発行)で加盟館に関する限りの雑誌の所在は簡単に分かる。加盟館以外の所蔵は「文部省学術雑誌総合目録」により複写物入手することができる。国内に所在しない時はうへにも述べたようにIndex Medicusあるいは英国の図書館の所蔵総合目録も参照することができるので、ほとんど世界中の文献入手もできる筈になっている。

② 著者名、題名など大方の事項

JMLA	慶大	対	申込No.	年月日	答付No.	年月日	発行年月日
	相互利用	誌名	巻号	頁年	著者	論題	書名
通知書	照会	閲覧	借用	複製	ゼロックス	フィルム	ハツ切
	キャビネ	その他	備考	申込者: 所属	氏名		
謝		所蔵なし	欠本	欠号	調査中	著者 論題 版)	
絶		貸出不能	複写不能	参照不究(誌名)	巻年	著者 論題 版)	
		貸出中(月)	日頃再申込のこと	製本中(月)	日頃再申込のこと		
		その他					
		慶応大学医学部図書館		新宿区信濃町35(353-1211)内2754		担当者	



が判っているが、一部の書誌事項が不明の場合、さらに、題名や掲載誌名など重要な項目が判らない場合。後者の場合でも内容は大体わかっているのに重要な事項が判らないので複写を欲しいことがある。また、ある主題についての文献を集める必要があることもしばしばあるが、とにかく、一応文献の書誌事項が完全でない場合の探し方を簡単に述べる。

#### 1. 日本の文献

医学中央雑誌で殆んどカバーされる。これについてはここに詳しく述べるまでもないが、現在年間に10巻発行されており著者、物件索引と抄録本体から成っている。

#### 2. 目次内容速報

およそ数年前から発行されている Contents of Current Medical Periodicals がある。これは約180種の世界の雑誌をカバーし、目次をタイプ印刷し、旬刊で発行している。またアメリカの Institute for Scientific Information (ISI) で刊行している Current Contents for Life Sciences (1958-) は各国雑誌の目次を自国語のまま集めている。これは多くの場合、その雑誌の発行と同時に刊行されるので迅速な情報源となる。著者の住所のリストが附記されているので、別刷依頼も可能だし、発行元 ISI で複写の便宜をはかっているから、ISI でみつけて、複写申込の普通の手続きでコピ

ーを入手できる。

#### 3. Index Medicus

これについてはうへにもしばしば述べたが、National Library of Medicine (アメリカ) で発行しているもので、現在のシリーズは1960年から発行されている。これには2200種以上の世界中の医学雑誌が含まれる。1960年以前にもいくつかのシリーズがあり、1800年代の後半からの文献が集積されている。

#### 4. 抄録誌

抄録誌としての代表は Excerpta Medica でアムステルダムで発行されている、現在は28の分野に分かれている。Zentralblätter はドイツからだされている主題別の抄録誌である。ソ連のものとしては Meditsinski Referativnyi Zburnal がある。さらに Chemical Abstract, Biological Abstract は文献索引のうで忘れてはならないものである。

以上、せっかくコピーをとるのであるから、内容があまり分かっていないときは、Abstractなどで大方の内容を確認してから依頼すべきであろう。なんでもかんでもコピーをとる人があるが、整理が十分にされていないと却って邪魔になるし、経済的・人力的にも無駄になるので、一応内容がコピーをとるに価値あることを知ってから手続きすべきである。

## むすび

とにかく、現在の図書館は昔の図書館とは、機能その他において全く変わってしまった。それによって利用者はより広く、より早く、文献を読むことができ、また、必要な場合には、コピーを入手できる。利用者は図書館員に困ったことは何でも相談すべきである。現在、複写サービス等について、「こうあって欲しい」と要求することがない位完全に近いと思われる。むしろ、われわれ利用者が、コピーをしたものを如何に整理し、必要な時にそれを取り出すかという、利用者自身のファイリングが問題ではなからうか。また、複写で一言しなければならぬことは、外国雑誌に掲載すると、最低100部から多い時は400~500部の Reprint の請求が諸外国から舞いこむのに、国内雑誌では別刷要求が非常に少ないのはどういうことであろうか。無

料で Reprint を入手できるのだから、わざわざコピーすることの馬鹿らしさを考えて、ふだんからファイリングしておけば、いざという時に役立つ筈である。図書館で個人(利用者)のためのファイリングの仕方の講習会でも開いて貰えないものだろうか。秘書をもたないわれわれ研究者は、ファイリングということで全く無知に等しい。経験だけに依存してやっている現状である。とにかく、複写が簡単になった現在、おびたしい数になるコピーの整理がむしろ問題になっていることを利用者の一人として図書館の方々にお知らせしたい。そして、塾として医学部として何人かの図書館嬢を雇用し、研究者のための巡廻ファイリングサービス業を開業し、利用者はそのための費用を少しづつ、出し合うようにしたらどうであろうか。複写の話からとんでもない「むすび」の言葉になったが、この機会を利用して述べておきたかった。

## 図書館の複写センター

三田の本館には複写センターがあります。塾の教職員でまだこのことを御存知ない方が存外多いのではなからうか。こんな気がします。三田研究室が新しく拡充されようとしている時、改めてサービス機能が話題となりつつありますが、図書館は図書館として全塾ネットワークの文献情報サービスを考え、そのサービスポイントとしての立場に立って図書館サービスの基本的在り方に留意しながら、具体的には将来の大きな計画に直結できるよう可能な範囲で一つ一つサービスを実現する努力をして来ました。

本館で今活動している複写センターは正にこの意図に則したもので、将来の発展性を含むサービスであります。文献の複写サービスとは凡そ研究教育にたずさわるものにとり欠くことの出来ないものでありますから、如何にそれが効果的に行なわれるかが重要でありましょう。この点本館のそれはまだまだ不十分かも知れませんが少しづつ改善してゆく努力をしています。本館の複写センターは現在はゼロックスサービスに重点をおいていますが、最近導入したエレファックスその他精密な複写印刷機械による高度の印刷サービスの開発にも努力しており、やがてマイクロ撮影をも含め広範囲の複写印刷センターとして発展する可能性もっています。ここで現在の複写センター業務については是非紹介しておきたいと思えます。

この複写サービスにはゼロックス電子複写機によるものと、マイクロフィルムによるフォトコピーサービスとがあります。まずゼロックスによるものは原資料の実物大の大きさにしか複製できない点がありますが短時間にそして極めて鮮明に複写できる強味があり、マイクロフィルムによるものは1コマにオリジナル文献を小さく収めることが出来、更に需要によっては希望の大きさに焼付写真として引伸しのできる利点もっています。複写希望者は図書館のほか研究室その他の所蔵資料について複写なさりたいときゼロックスによるものは本館地階ゼロックス複写の受付へ、マイクロフィルムによるものは新館2階のレファレンスルームで、それぞれの個所に備付の文献複写申込書に御記入の上、資料共々係員に提出していただきます。

料金 (1) ゼロックス 1枚 (B5版見開き)

本塾教職員・学生30円、学外者40円

(2) マイクロフィルム 1コマ10円

学外者はこの外、基本料金250円

本塾教員の方々には上記ゼロックスによる複写料金に特別図書費・各種研究費を充当する取扱いを致しております。お申込みの折研究費の区分並びに請求書の送付先を申込書の備考欄に御記入願います。

注意 (1) 全巻複写には誓約書が必要であること

(2) 貴重書準貴重書は館長宛許可願提出のこと

ライブラリー  
ミニミニ図書館—文献のマイクロ化

文献複写と関連して、マイクロフォーム資料とは何か、どんな形態のもが実用化されているか、文献のマイクロ化と将来の文献・図書館などについて専門の立場から解説していただきました。

浜田 敏郎  
(文学部図書館学科助教授)

私はかつて「ポータブル・ライブラリー」について空想したことがある。この「ライブラリー」は数千冊、数万冊の図書が異質の媒体に変換され、微小に縮小され、整理されて、ちょうどポータブル・テレビセットのような容器に保管されており、どこへでも自由に携帯でき、必要なときに文献を検索できこれを読むことができるものである。

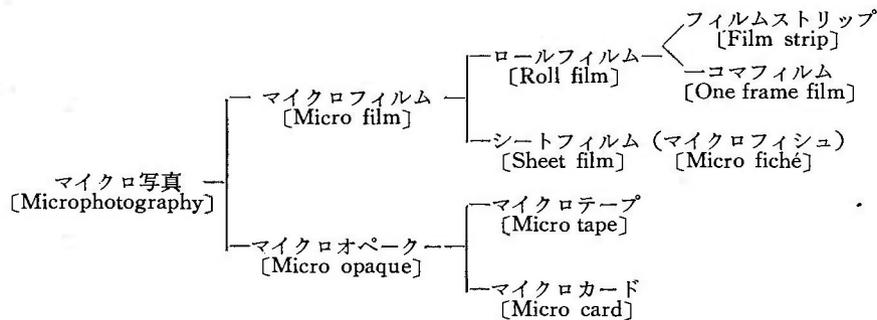
文献を検索するときは、ダイヤルと押しボタン操作で自動的に探し出すことができ、文献を読むときは、別のダイヤルと押しボタン操作で文献が拡大され、肉眼で読むことができるようテレビセットのように像が映るリーダーがついており、更にこの文献のコピーが必要なときには、また別のダイヤルと押しボタン操作で拡大複製されて出てくるプリンターもついているのである。

この「ポータブル・ライブラリー」に収蔵されている縮小文献単位はカメラのような特殊装置の機械を使用してどんな資料も高速、正確、容易、安価に作成できるし、印刷機のように同一のコピーを高速に作成することもできるので、文献の購入、配布、交換等々はすべてこの縮小文献単位で行われるので、出版界、書籍業界、図書館界、教育界、事業界等の状況が現在とは異っている等々と次から次と空想をめぐらしたこと

がある。

マイクロ写真は上記の空想に近い要素もっている。現に各方面で盛んに利用されている。そしてより縮小化への研究がされており、試作段階ではあるが、郵便切手大の面に200頁の文献が収録でき、更にタイプライターの「・」(period)の大きさに文献の1頁を収録することができるのである。このような事実を見ると前述の空想はあながち夢だとして片付けられないところもある。

「マイクロ写真とは、肉眼では判読できないくらいに、非常に小さくした縮小写真複製で、その像を読んだり、見たりするのに、何らかの光学的拡大装置を必要とするものの総称である。」といわれている。マイクロ写真には透過光線を利用して読みとるものと、反射光線を利用して読みとるものの二つに大別できる。前者をマイクロフィルムといい、フィルムをベースとしたものであり、後者をマイクロオパークといい、印画紙や紙をベースとしたものである。これらを更に分けると次のようなタイプがある。



マイクロフィルムはロール状とシート状とがあり、ロール状フィルムを切断することにより、ストリップフィルムや一コマフィルムになる、シート状フィルムは「マイクロフィッシュ」と呼ばれることが多い。マイクロフィルムの特徴はリーダーで読むときマイクロオパークより像が明るく、複元性に富んでいる。すなわ

ち、拡大複写にも印刷原版作成にも便利である。しかしフィルム面にきづがつきやすいし、マイクロオパークに比し強度も弱い。

ロールフィルムはもっとも基本的かつ普遍的なタイプで通常100ft (30.5m)の長さのフィルムをリールに巻き、特定のケースに入れ、利用するときはリーダーにかけてリールを廻し、読んで行くことになる。この幅には16mm, 35mm, 70mm, 105mmがある。このうち35mm幅フィルムがもっとも普遍性のあるものである。このロールフィルムのタイプは保管のための空間が最小であり、保管の経費も安価な方である。沢山の文献が収録されるので欲しいものを探し出すのにやや厄介であり、一部の修正、追加、再編成する場合には不便である

通常、各種の文書、小切手、株券、伝票等の法的な証拠として保存するときや、一連の継続している新聞や雑誌のバックナンバーの保存のためには便利である。

フィルムストリップはロールフィルムを25cm ~ 30cm位の一定の長さに切断したもので、保管方法としてはフィルムホルダーやフィルムアルバムに一本づつはさんでファイルするか、フィルムジャケットという透明な定期券入のようなものはさみこんでファイルするかである。フィルムジャケットに数本のフィルムストリップを挿入したものは形状的には後述のシートフィルムと似ている。

フィルムストリップの特徴は必要な小部分のみを取り出して使用できるし、部分的な修正や削除や追加等も可能であるから撮影時に大規模な撮影順序計画を立てなくてもよく、検索も比較的容易である。しかしホルダー、アルバム、ジャケット等を使用するので保管容積がロールフィルムより増えることになる。

特定の観点で新聞、雑誌、単行本等の記事を収録しておくのに便利である。これは後述のシートフィルムの効用との比較においてどちらにするかを決定すべきである。

一コマフィルムはロールフィルムから1コマづつ切断したものであり、カードに窓があけられそこにこのフィルムをはめ込みはりつけたものが普通である。これをアパーチュアカードと呼んでいる。カードの種類にはいろいろあるがパンチカードがよく使用されていて、これにはハンドソートのと機械ソートのとの二つが考えられる。保管方法としてはカードケースにファイルしておく方法である。

この特徴は検索の媒体となるカードが一コマフィル

ムのホルダーの役目をし、一方、フィルムについて直接記入できるスペースも持っているのが特色である。これはフィルムストリップより更に自由に訂正、追加、削除等ができるし、多角的検索が可能である。しかしコストが高く、保管容積が大きくなるし、散逸、紛失の可能性も考えられる。

各コマが独立性のある資料に対して便利である。特に設計図のようなものの図面管理に圧倒的に利用されている。

シートフィルムはマイクロフィッシュとしてよく呼ばれるものでシート状のフィルムであり、大きさとしては図書館の目録カード大の72×125mmから90×120mm, 105×150mm等がある。1シート6コマ位から200コマ位の収容能力があるので1コマ2頁づつ撮影するとすれば12頁から400頁の収録能力があることになる。

このタイプのフィルムは最近富みに利用の増加がはげしくなってきた。これは前述のフィルムストリップをコンパクトにしたものであると考えられる。普通、保管方法としては一枚一枚封筒に入れて所要のことを記入してカードケース等にファイルする。

この特質としては文献単位にまとめてフィルムを作成できることが特色である。この種のフィルムが文献の配布、交換、保管にもっとも便利なものであろう。これから研究活動、図書館活動において考慮しなくてはならないタイプである。

マイクロオパークはマイクロフィルムをもとにしてロールフィルムやマイクロフィッシュから印画紙に焼付けたものであり、ロールフィルムからマイクロテープができ、フィルムストリップ数本をそろえて印画紙に焼付けたものやマイクロフィッシュから印画紙に焼付けたものがマイクロカードである。

この特質はフィルムより強いので表面の保護にあまり気を使わなくてもよいが、日本ではあまり利用されていない。その理由としてはリーダーにかけて見たとき反射光線を利用するので像が暗くて読みにくいからであろう。

ここで最初に述べた「ポータブルライブラリー」との関連で考察して見ると、マイクロ写真は非常に小さく文献を収録できることは重要なことである。マイクロ写真は直線縮小比が $1/10 \sim 1/40$ で、面積縮小比が $1/100 \sim 1/1000$ であるといわれている。現実に保管容積では従来の容積の80%以上も節約できるし、輸送にも非常に便利になっている。

文献を読むときにはリーダーにかけて拡大して読め

るし、プリンターにかけて拡大したプリントが作成できるし、またリーダーとプリンターを組合せた「リーダー・プリンター」もある。更に電子式写真法（ゼロックスなど）を通して復元し、これよりオフセット印刷原版などを作り多量に印刷することもできる。

また従来の出版物にかわりロールフィルムとし、マイクロフィッシュとして文献の配布、交換されている分野が出てきている。前者は新聞において見られ、後者においては科学技術分野に多くの例を見ることができる。

以上のことはポータブルにはならないがその可能性は推察できる要素であるが、一番問題になるのは検索の問題であり、これはマイクロ写真だけの問題でもな

い。本質的な要素とマイクロ写真に関連する要素とがある。

前者では文献内容の分析に関係し、もっとも検索しやすい索引方法の計画であり、後者はマイクロ写真での特色を生かした検索方式に関するものである。例えばマイクロ写真の索引は図書館で使用する目録カードを利用して作ることができるが、折角、マイクロ化したのであるから、索引もマイクロ化できないであろうか。さらに各マイクロ化された文献に直接索引コードをつけて機械的に検索できないであろうか。実は、これらの考えはすでに特殊な分野では実験が行われ、或分野では実用化している。しかし、まだまだ完全であるということではできない。

## 図書館ニュース

### 1. 教員諸氏へのお願い

(1) 図書館へお入りになる時受付に入庫券を必ずお示し下さい。教職員方の数が多くなりましたので、受付係がお顔をおぼえ切れず、入口が混乱しますので、是非お願いいたします。

(2) 図書の館外貸出は3カ月期限、30冊限度をご励行下さい。尚、御研究中でその限度を超える場合は一応、館長にお届け願います。

(3) 雑誌は最近頃に利用が増しており所謂利用の重複が生じておりますので期限内でも是非お早く御返却下さい。

(4) 図書返却の際、冊数の多数でお困りの場合、病気その他の事故により御持参出来ない場合は、当方より係員が引き取りにお伺いします。その場合、担当者は秋山(教職員貸出係)でございますからよくお打合せ願います。 [電話(453)2111 内線302]

2. レファレンス・ルーム(参考調査課)よりお知らせ

(1) 御利用なさりたい文献がどこにあるかを知りたいとき、当課まで御連絡ください。都内の主要大学にあるかどうかは、電話にて相手の図書館に照会してお答えいたします。

(2) 国内の大学、研究所などないときは、アメリカの議会図書館や主要大学に連絡して、マイクロフィルムにて利用できます。本誌の渡辺国広先生の論文にその方法が書かれておりますから、御一読ください。

(3) (1)(2)のどちらの場合でも、マイクロフィルムで大体入手できますから、それから引伸して文献の利用ができます。外国の場合は、少し日数がかかります

が、大体1カ月から2カ月位かかります。料金その他詳細は当課におたずねください。

[電話(453)2111 内線303]

### 3. ゼロックスの移転について

12月20日からゼロックスは図書館地階新聞閲覧室の奥に移りました。複写のお申込みもここで受付しております。 [電話(453)2111 内線307(総務課)]

### 4. エレファックス電子複写機の導入

サービス用の収書目録の作成など印刷業務の高能率化のため本年9月に購入。レファレンス月報、指定図書目録、三田文学ライブラリー収書目録などを発行し、将来は貴重書のリプリントやコンテンツサービスも行なってゆきたいと考えています。

### 5. 洋書カード目録の変更

慶応義塾研究教育情報センターで制定した洋書目録最低基準に則り、本館洋書目録を作成し始めました。さし当って洋書著者名目録においては新しくもうけた排列規則により標目の調整を行ないつつ修正を致しております。

### 6. 三田文学ライブラリー

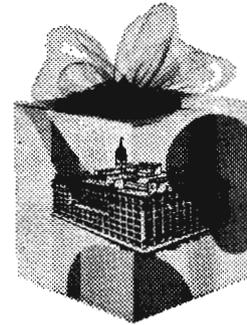
三田文学関係作家の作品を収集している特別コレクションである三田文学ライブラリーは八角塔の2階、3階を改修して展示し、研究者の利用に供することになり、此の度第一期工事が完了しました。

### 7. 「資本論」刊行百年記念図書展示会

11月7日より9日まで図書館記念室で経済学会との共催で「資本論」刊行百年記念図書展示会が開かれました。この展示会目録は残部がありますのでご希望のかたは、図書館総務課へお申し出下さい。

受けて重宝 三越の商品券

三越



流行のトップをゆく  
ファッション……  
伝統の  
みやびなまもの……  
産地直送の  
香りゆたかな  
風味……  
ハイセンスの  
リビング用品……  
いつも新しい暮らしの  
夢をおくる三越

日本橋本店・銀座・新宿・池袋・丸の内(以上東京)・大阪・神戸・高松・松山・仙台・札幌

## 文献複写

はゼロックスで

迅速・鮮明

申し込みは

図書館地下

複写センター

内線 307

HM

## 営業品目

金物部…建築金物、建材製品  
ステンレス製品、土農工具  
硝子部…旭ガラス(株)  
日本板ガラス(株)特約店  
化学品部…タール製品、コパール(合成樹脂)工業薬品、防錆剤  
タール製品部…タール製品、石油化学製品  
物資部…建築附帯工事及建設機材一般

H. MORIOKA & CO., LTD.

株式会社 森岡商店

東京都中央区日本橋茅場町2-13

TEL (668) 8861 (大代表) ~74